

### 貴重な経験

後から考えても、ものすごい経験をしたのだと思う。今回の東京大学見学会・企業大学訪問は、そのように考えさせられるものだった。自分の視野の狭さを改めて実感したと同時に、とても有意義な時間を過ごすことが出来たと思う。どの話も為になることばかりで、書き出したらきりが無いと思う。しかしここでは、自分のたった一度きりしかない人生そして将来について考えさせられたものについて3つのプログラムごとに語りたと思う。

まず東京に来てから最初の経験は、ディレクトフォース夏季プログラムだった。ここでは基調講演を聞いたり、グループセッションをして日本、そして世界の第一線で活躍されている又はされてきた人たちのお話を聞くことが出来た。このセッションでは、大学を乗り越えて様々な職業や人生についてを語り合うことが出来たため、自分の視野を広げることが出来たと思う。3, 4人の方のお話を聞いてく中で、私は頻繁に出て来る一つのキーワードが心に残った。それは『留学』という言葉である。『留学』をして、自分のやりたいことが見つかった。」そんな声が度々上がった。『留学』を通して学ぶことが出来るものは本当にたくさんあるらしい。例えば外国で出会った仲間と話していると、世界の価値観の違いを感じたり、多様な視点を身につけることもできるそうだ。世界の価値観の違いについてのいい例を挙げて話をしていただいたので、紹介しようと思う。腕時計がある。日本は何のために腕時計を身につけるのか。また、作るのか。常識的にいけば、それは正確な時刻を知るためだと言える。ところが、そうではない国がある。どうして腕時計を身につけるのか。見た目を良くするため、ファッションの一環として身につけるといふ国があるという。それを留学で外国に行って、日本とその国のズレを体験し自分を見つめ直すということがものすごく大切らしい。そうすることで、例えば『腕時計』という物に対する見方のヴァリエーションも増えるのではないかと考えることが出来た。他にも働く意味やそうするために備えておきたい力など知らなかったことをたくさん教えてもらった。『留学』ということだけでも、今回の経験を通じて自分の中で深く掘り下げることが出来たと思う。いい経験になってよかった。

次にその日の午後から、私たちの班は順天堂大学医学部の天野篤教授を訪問してきた。天野篤教授とは、主に心臓血管外科を専門とする日本の外科医だ。今は順天堂大学医学部附属順天堂医院院長であり、天皇の手術をしたということで有名だ。しかし、天野教授はそこに至るまでに苦勞をたくさん経験し、努力して来た人でもある。僕たちの班はまだ将来の夢が漠然としていて、医療系のどこへ進めばいいのか迷っている人たちがほとんどだった。そこで単純に医師としての姿、またそこに至るまでのプロセスを聞きたいと思い、

事前にアポイントメントを取って訪問することになった。最初は秘書の方に案内されて、院長の応接室に行った。ところがまだ天野教授は手術の真っ最中であり、なんと手術室に入っただけの面会となった。20分後手術室の休憩室でお話することが出来ることになった。

この後も天野教授は、手術や別な人との面会があるらしく本当に時間を縫ってお話をさせていただいてるんだということに申し訳なく思うと同時に、とても感銘を受けた。天野教授は「どんな質問をしてもいいよ。」と言っていたので、マイルーティーンの質問をさせてもらった。マイルーティーンとはラグビーの五郎丸選手でおなじみになった、集中する時や自分を奮い立たせる時にするポーズや習慣のようなことである。スポーツ選手に関わらず、手術をする際や勉強をする際にもすることはあるのだろうかと思って聞いた質問だった。一番は何も考えずに自然状態にいることだそうだが、手術でいえば手術前に手洗いをする時、鏡で自分の顔を見るとやる気が出ると言っていた。また勉強でいえば、机に着いてから何か鉛筆を削ったり、おやつを食べたり、スマホをちょびっといじってからという途中経過をいれずにそのまま勉強をすることが一番集中できると具体的な例を言ってもらいながら答えていただいた。

その中で、私は『自然状態』という言葉に引っ掛かった。とても緊張する中を自然状態でいられるというのはなかなか大変なことだと私は思っている。そのような状況の中でも自然状態でいられるには、よっぽど経験を積んでいなければならないことだと思った。そこでそれについて、教授に伺ってみた。すると、なんと教授が一人前に医者として自覚をもったのが52~53歳からだということだ。それまでは、たとえ相手が子供であっても患者には敬語でお話をしていたという。ところがその頃から初めて患者さんに対して自然な状態でお話をして診療することが出来たのだという。

ここから分かることは、やはり一番は回数をこなし、成功も失敗もたくさん経験した分だけ強くなれるということである。成功した経験は次に生かし、自分のものにする。逆に失敗してしまったものは、『こうしたら、こうなる。』というデータをパターン化していき、いつでも使えるように自分の中で保存しておくことが大事だということも分かった。また失敗したことは、二度と同じミスを繰り返さないということも大事であるといことも教わった。当たり前のことかもしれないが、当たり前のことを当たり前になせる人ほど次の段階へと行くことが出来るものだと思う。今回は、人生に一度か二度という素晴らしい人の話を聞くことが出来て本当に良かった。有意義な時間を過ごすことが出来て本当に良かったと思う。

その日の夕食後から、その次の日にかけては主に東大生のお話をたくさん聞くことが出来た。しかし、私の人生の中でこれほど東大生を身近に感じたことはないだろう。そして、今まで私の持っていた東大生のイメージもまた変わったと思う。東大生というと、天才型で考えが人とちょっとかけ離れているようなまさしく『イカ東(いかにも東大生)』をイメージしていた。ところが、意外と苦勞して入っている努力型も多く二高の中でとても苦勞していた自分にとっては親近感がわいてとても話しやすかった。東大生だけあって、言っ

ている内容は明確でかつ分かりやすく、具体的に大学生生活を意識することが出来た。高校一年生の内にしておくべきことや、勉強法先輩によって違うところもあったが参考になることは多かった。

そして今回のツアーの中で一番印象深かったのは、東大生が『東大を志望した理由』についてのグループディスカッションしたことである。東大を選択するメリットの一つに、高校のうちどこかの学部へ行くかを決めるのではなく、大学に入って実際に理系でも文系でもどちらの勉強もすることで、本当に自分のしたいことを探すという物がある。大学の勉強というのは、一見高校までの勉強の延長に見えるが実は内容が結構違うものだという。だから、高校のうちは何をしたいかがたくさんあり、だから大学で決めて行きたいという理由で入った人が多かったことに私はびっくりした。自分の人生は本当に一度きりしかないのだから、将来についてはもっとじっくり悩んで悩んで決めてもいいのではないかと思った。『何がしたいかを見つけたい』というのが明確な理由になって本気で東大を目指したという先輩の話を知ると、共感できた。大学を選択する上で、一つの理由の参考にすることが出来て、よかったと思う。東大に行くかは分からないが、大学を選択する時に先輩のような明確な理由を持って臨むことが出来たらいいなと思った。

あっという間の二日間だった。短かったけれども、内容は本当に濃いものでこの東大研修に参加して本当によかったと思った。元を言えば、将来の自分についてより自分なりの考えを深めることができたという思いで入った仙台二高。二高に入って早くも半年という月日が経った。まだ明確に夢や希望する大学ある訳ではなく、漠然としたイメージしかない。決して勉強が出来る方ではないので、現在の状況としては課題だけが山積みされているとでも言うべきかもしれない。しかしこれからの残りの高校生活で少しずつ、自分の将来に向かって進むことが出来たらいいなと思う。最後にこのプログラムの企画をしていただいた先生方、そして貴重な経験をさせてくれた家族に感謝したいと思う。